

高津中学校区
東高津中学校区 地域教育会議だより

わかあゆ

編集・発行:高津・東高津中学校区地域教育会議 広報委員会

地域教育会議がめざすもの

- ・子どもがいきいき育つまち
- ・おともも楽しく学べるまち

地域教育会議と言っても分からない人も多いと思います。

名称が堅いこともあり、地域に浸透しているとは言い難いかもしれません。

1980年代、校内暴力で荒れる学校や少年事件が多発。川崎市では地域からの教育改革をめざし「地域教育会議」が提案されました。

地域と学校、行政が共に協力し、子どもがいきいき育つまちを作ろうというものです。

そして、おともも楽しく学べるまち、ひいてはあらゆる人々が共に生きる地域社会をめざします。



地域教育会議は平成10年にはT行政区、51中学校区すべてに設置されました。高津中学校区と東高津中学校区とは川崎市で唯一、2つの中学校区が合同で活動を行っています。また、その活動の中から、総合型スポーツクラブSELFTと防災・防犯ネットワーク、2つのNPOが誕生しました。コロナ禍により活動が制限される中、これまでの実績を先人たちに語っていただきました。知らなかった方々に同知することともに、今後活動を繋いでいただく方々への一助として。

(企画・編集 角田)

広報誌「わかあゆ」の命名

大塚 勉

私が高津・東高津中学校区地域教育会議のメンバーになったのは、東高津小学校のPTA会長に就任した平成13年度からで、広報委員会の末席に加えていただきました。

自他共に認める軟らかい人間の私は、「地域教育会議だより」というネーミングは堅くて、読者がとっつきづらいのではなにかというイメージを持ち、当時の黒川広報委員長と相談し、この地域の子どもたちが、母なる川多摩川の清流で育つ若鮎のように、力強く健やかに成長してほしい、そして何より一人でも多くの方に親しんでいただけたらとの想いで、第11号の広報誌から「わかあゆ」というタイトルで発行させていただくことになりました。



年度内に2回発行でしたので、総会終了後その日に両議長へ原稿依頼し、調査提言・連絡調整委員会には、早目にイベントを行ってくださる等々、かなり無茶なお願いをしていました。それでも原稿が仕上がるのは、締切日の朝方になることが多々あったり、予算の関係か？ 回覧用の「わかあゆ」を、各町会長宅へ自転車等で配布するなど、広報委員会は体力勝負！ 若かったからできたのかもしれませんが。また、総合型クラブ自体は、平成7年の育成モデル事業(旧文部省)から開始されていましたが、私が広報委員長を受けた頃、全国で総合型地域スポーツクラブ育成の動きが活発になり、高津地区でも設立準備委員会が立ち上がり、体育指導委員会(現スポーツ推進委員会)の副委員長を務めていたこともあって、

会議に出席させていただきました。当然のことながらハードルは高く壁にぶち当たりましたが、参加委員の必ず実現させたいという熱意、結束力と執念で、ブレオーブンを経て平成18年にSELFTが誕生しました。

私も微力ながら今日に至るまで、週1回のニュースポーツというコマの講師として、幼児から中学生会員さんに、キンボール・ドッチビー・ポッチャなどに慣れ親しむ機会を与えていただいております。しかし、昨年からは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動自粛を余儀なくされ、2月8日に安全な環境下で2度目の再開をしたものの、感染を恐れられられない会員さんも少なくありません。コロナで世の中全体が閉塞感に包まれていますが、一日も早く終息し、安全・安心な「日常」がかえって来ることを祈念します。

中学校区地域教育会議のスタート

菊地 正

平成12年に川崎市では初めての、二中学校区合同の会議がスタートいたしました。

地域でもともと六校連という組織があり、様々な活動を地域全体で、学校とPTAが協働し活動をしてきた歴史がありました。私は



当時、高津中学校PTA会長に就いており、第二世代の高津・東高津中学校区地域教育会議議長を拝命いたしました。各校の学校長とPTA会長を中心に、様々な地域課題の解決、学校・地域との連携など沢山の課題に向け、熱い議論を交わしたことを、昨日のように記憶しております。その中でも、将来に向かった楽しい夢を語る

機会が沢山ありました。私は、この時の仲間と様々な難しい問題も多々ある中で、夢を語る会にしたいと考へ、常に皆さんとの共通認識を持ち、会議を運営して参りました。この考え方が、現在でも私の会議の進行の基本となっております。『教育を語るつどい』『子ども会議』を中心に、学校、地域、子ども達が同じステージで活動できる場づくりをひとつでも多く実現できるように、皆さんで



2004年の子ども会議で話す菊地さん。

沢山話し合った思いがあります。その結果、この会議から、より具体的に日常的に現実的に行動できる団体が二つ生まれました。NPO法人防災・防犯ネットワークと、NPO法人高津総合型スポーツクラブSELFです。

それぞれの団体は、この会議で活動した仲間たちと、地域の安心・安全を守るまちづくり。スポーツを通じた『人づくり』『街づくり』『健康づくり』『仲間づくり』で、元氣な地域を作ることを目的とし、現在も沢山の仲間たちと活動を続けております。この活動の基礎となった地域教育会議が、今も地域の皆様と共に活動を続けていくことに、関係各位の皆様方に、心から感謝と敬意を申し上げます。そして、これからも子どもたちの夢のあ



スナックゴルフやキンボールなど、ニーススポーツを子どもたちに紹介。

『たかつ de 笑顔 ファミリスポーツ緑日』って、どんなイベント？

高津区役所とSELFとの共催で、親子で色々なスポーツを楽しむ参加することで、地域を繋いでいこうというイベントです。平成26年3月に初めて開催、今では参加者が千人を超えるものになりました。第5回日、2017(平成29)年12月の様子を角田がまとめたものがありますのでご覧ください。



◆各スポーツのブースにはシールを用意。全ブースを回り切った参加者は輪のつかみどりをする事ができます。



◆あめ組工



◆スポーツ用義足体験



2017年笑顔フェスティバル写真

◆最後に参加者全員で「スマイル」の人文字、行列になりました。約300名が参加。

る未来に向かって、地域の皆様方と魅力ある地域づくりを連携して行っていきたいと思っております。今年度は、コロナ禍に於いて、様々な活動やイベントが中止となりました。新しい生活習慣に向かつて、これからの地域づくりには、皆様方の沢山の経験と知恵を活かしていただき、更にこの会議が発展していけることを願っております。

地域教育会議と私、SELFと防犯ネットワーク 安藤 裕規

私が地域教育会議と関わってからは、今年で15年になります。最初に、地域教育会議を知ったのは、久本小学校PTAの役員となつて参加させてい



地域の安全のために何が出来るか 田中 伸一



今から20年前の二〇〇二年、坂戸小学校のPTA会長を拝命し、自動的に地域教育会議の調査提言委員長となつた。当時は地域教育会議が何かを理解しておらず、何をしても良いか分からなかった。同年6月、安全と言われていた学校の中で児童8名が殺傷され、15名もの重軽傷者が出る。大阪教育大付属池田小学校事件が発生し、全国各地で刃物を持つて学校に侵入するなど模倣した犯罪が発生した。一方、私の経営する不動産管理会社では、外国人によるピッキング、サムターン廻しの手口による空き巣が多数発生しており、治安の悪化を実感していた。

そして同年9月、アメリカで同時多発テロが発生。私の所属団体での役割から、元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏にインタビューする機会があった。詳しい内容は割愛するが、今回のテロは、一国だけの安全はあり得ない世の中になったことを象徴している。そして、これは地域でも同じこととアドバイスをいただいた。それまで、自分がPTA会長を務める学校の児童を守るには、自分の会社で管理している物件を守るには、と考えていたが、子どもだけが安全な街はあり得ないし、自分が管理しているマンションだけの安全はない。地域全体が安全な街にならなければならぬと気づき、まさに目からウロコが落ちる思いだった。地域の安全のために何が出来るかを協議

し、地域として防犯に取り組んでいくことを確認。協力したいとの地域の方々の善意の受け皿となるべく、委員会のメンバーと共にNPO法人「防犯ネットワーク」を設立した。

05年12月、「地域安全フォーラム」みんなの力で地域を守る」を開催。講師に迎えたのは、池田小事件で被害者となつてしまった児童のお父様、そして、子ども対策の切り札と言われる「地域安全マップ」を考案した犯罪社会学者の小宮信夫立正大学教授。初の一大イベントだった。



挨拶する田中さんと体育館いっぱいの聴衆(久本小)。

防災でも地域連携が大切であり、東日本大震災以降、防災・防犯ネットワークと名称変更し、防災にも関わっている。近年、設立当時と比べれば犯罪発生件数は大幅に減り、地域の犯罪情報も登録をすればかわさきアプリで受け取れるようになった。社会的役割を終えたのではと感じることもある。しかし、私がこの活動を通じて得た仲間・経験は、掛け替えのない人生の宝である。

防犯ネットワーク立ち上げへの思い 鈴木 邦之



防犯ネットワーク立ち上げへの思いは、二〇〇三(平成15)年、「地域の防犯を考える」をテーマとした地域教育会議の子どもの小田啓二理事長に講演していただいたことが始まりでした。講演の眼目は「割れ窓理論」。割れた窓を放置すると、それは「誰もこの地域に注意を払っていない」というサイン。犯罪を起こしやすき環境を作り出す。見て見ぬふりはしない、自分にできることはするということでした。



地域安全マップの講座で講師をする鈴木さん。

参加者アンケートでは、95%の方が「何か地域のために自分ができることがある」と協力を」との回答。この結果を見て、理事長の田中と何かしなといかない、という気持ちの醸成が図れたと思えました。その後、子どもたちが自分のことは自分で守れるよう、地域安全マップの普及活動に取り組みなど、情報配信の画期的取り組み以外にも関わるようになりまし



「わんわんパトロール隊」では犬の散歩で街を歩く方に隊員証を付けていただきます。多くの方が様々な時間帯に街に出ることで、犯罪抑止力になっていただきます。屋外での隊員募集・登録会(これは2005年4月)。



2006年8月、宮前区地域教育会議の招きで地域安全マップの講座を開催(土橋小学校にて)。「マップづくり・フォーラムに、いつもたくさんの方がいらっしゃるの素晴らしいと思いました」とは、2007年8月、神奈川県「安全・安心まちづくり県民フォーラム」でいただいたお褒めの言葉です。

ただいた時でした。各学校の校長先生や教頭先生が参加されていて、地元の方もたくさんいらつしやっております。何だかすごいところなんだなあと、お客様状態でした。そんな私が、深く関わるきっかけとなったのは、「高津総合型スポーツクラブSELF」に勤務してからだと思えます。SELFでは、年に1回「たかつ de 笑顔ファミリースポーツ緑日」というイベントを開催しております(昨年は新型コロナウイルスの影響で中止になりました)。このイベントには、地域教育会議の皆様にお手伝いとして毎年参加していただいております。イベントブースに入っていたブースを訪れる子どもたちとコミュニケーションをとって、楽しく過ごしていただいております。私自身、子どもたちの笑顔や、地域教育会議の皆様のおかげで、毎年幸せな気持ちにさせていただいております。また、防犯ネットワークが講師を務める地域教育会議の「地域安全マップ作成講座」にも毎年関わらせていただいております。こちらも最初は自身の子どもと参加させていたのですが、内容の濃さや楽しく防犯を学習できることで感動しました。身近な防犯をこんな形で子どもたちが学習できるんだ!と思ひ、ますます地域教育会議がステキなところだと思ひました。昨年は、地域教育会議の皆様とも会えずに1年が過ぎていきました。皆様にご会って、また子どもたちの笑顔を分かち合える日を楽しみにしております。また、この活動に興味を持って参加していただける方との出会いも楽しみにしております。

引きこもりの私を引っ張り出してくれた「地域教育会議」

二戸 恭子



人見知り引きこもりの私が、家族と職場の人間関係だけの生活に満足し薬に生きていたころ、PTAの先輩が狭い社会の中から、引きずり出してくださっていました。

保護者と教職員の組織PTAの役員を経て、地域と学校・行政がともに協力し子どもが生き生き育ち、大人も楽しく学び、あらゆる人々が共に生きる地域社会を目指す活動をする地域教育会議に参加することにしました。

地域教育会議では、教育を語るつどい委員会の委員として、またそこから派生したNPO法人防災・防犯ネットワークの理事として活動することになりました。

これまでの活動で、記憶に残る印象的なこととして、私の単なる思い付きの言葉が形となったことがあります。

教育を語るつどい「みんなの力で地域を守る2011」のことです。その年は、落語家さんをお呼びし、防犯ネタの新作落語で「振り込め詐欺」などを防ぐ知恵を楽しみながら学ぼうということだったので、「子どもたちや地域の方々から川柳を募集し、優秀作を発表したらどうだろうか」と提案したところ、防災・防犯ネットワークの他の理事や当時の教育を語るつどい委員会の方に「意見や助言をいただき、恒例のコーナーとなることになりました。各学校の校長先生はじめ先生方には、

お忙しいところ子どもたちへの川柳募集から指導、優秀作の選定に至るまでご協力をいただき、ありがとうございます。子どもたちには、川柳という形にとらわれず考えてもらうために、標語のようなものでも構わないとしましたが、子どもたち自ら、防犯や防災について考えてもらうことで、防犯・防災意識を育てることができたのではないかと考えています。

みんなの力で地域を守る！ 2011 防犯落語会開催

三遊亭好太郎さんという方でしたね。

地域活動の楽しさに気づかせてくれた地域教育会議

和田 隆昌

一九九〇年代後半から、会社員から独立し、今から考えれば、無謀にもNY進出を企てていた自分は、二〇〇一年NYのテロ事件に目標を砕かれ、全く異なる「防災」を自分の独自のコンテツにしようとして模索していました。そんな中で防犯ネットワーク(当時)の理事長である田中さん、副理事長の鈴木さんと偶然知り合い、メンバーにならせていただき、それまでの人生では、全く関わったことなどなかったNPO法人「防犯ネットワーク」での活動に参加し、地域での活動の大切さ、業



気信沼市産折(ししおり)にて

しきに気づかせていただきました。その後、防災に関する本をいくつか出せるようになり、メディアや講演などにも呼ばれるようになったのも、原点にしていたのはこの地での活動であり、二〇〇八年、09年に行われた地域教育会議の「教育を語るつどい」での地域安全フォーラム「みんなの力で地域を守る」での防災に関する講演でした。

「教育を語るつどい」での講演をさせていただきましたが、そこではもうかなり余裕をもってお話が出来ました。この活動に参加させてもらったことに大変感謝しております。



講演の後、田中理事長が進行。会場から質問を受け、和田さんがそれに答えたり、聴衆に紅白のカードでアンケートをとったり。この頃、NPOの飲み会では、飲むにつれ今度はこうしようと、活動レベルのハードルをどんどん上げていく発言が頻発。和田さんも呆気にとられたでしょう。私もおかげさまで印刷物や動画作成のスキルが上がった？

みんなの力で地域を守る！

地域教育会議での最初の講演のチラシ。



「二〇二〇まで、中学校区の地域教育会議から生まれた二つのNPOの話を中心に紹介してきました。次は、まず人がありきて、それが繋がることでこんなことができた、こんなイベントに発展した、さらには「福祉」にも出会ったという話です。



東高津中学校の吹奏楽部のステージ(2017年)。

学校の教育推進会議の委員を丸10年務めることに。さらに昨年は、福祉事業に熱意のある若者と一緒に知的障害者を支援するグループホーム事業を行う法人も立ち上げました。人生何がどうなるのか分かりませんが、地域とのつながりを大事にすることが全ての始まりでしょうか。コロナが落ち着いたら、またイベントでお会いしましょう。

「うちの体育館を使いませんか?」二〇〇八年、ある日の北見方の居酒屋で、川崎市立中央支援学校(当時は市立養護学校)

音楽イベントを通じた地域のつながりと福祉に出会った私

村西 明



新型コロナの影響で、残念ながら昨年からは中断してしまいましたが、二〇〇八年から19年まで12回続いている「ふれスタ」。東高津中のおやじの会とPT

のPTA会長さんから声をかけていただいたのが始まりでした。地域の音楽やダンスの好きな子どもや大人のバリアフリーイベントとして毎年、夏に行っている「ふれあいフェスタ」(通称「ふれスタ」)。



高津高校のバンドとコラボするオヤジバンド。ドラマーは高津高校の先生です(2017年)。左端は村西さん。その右は東高津中学校区地域教育会議の歴代議長でもある清水さん。この誌面巻頭に書いてくれた大塚さん、また大塚さんの原稿に登場する黒川さんも、初回のふれスタから手伝ってくれました。

東高津中学校区

「おやじの会」の始まり

棚部 哲男

20年ほど前、東高津中学校のPTA役員を務めました。学校行事等にお父さんたちの参加が非常に少なく、角田会長年度の文化祭(ふれあい広場)に向けて、これでは駄目だと思い、早速仲間を募ろうと考え、保護者にとらわれず地域の仲間達にお声がけしました。

地域の男性が学校に足を運ぶこと、ひいては子どもたちと触れ合い、地域に関心が持て、仲間との交流も出来る、地域の輪が広がると考えました。

会費はなく、話が出るたびに集まり、役職はなくみんな平等。PTA副会長が世話役となり、学校、PTAなどで、例えば校門のペンキ塗り、校内のLANケーブル敷設工事、芋畑の耕しなどを行う。大仕事でしたが野球のゲージ工事も。

もちろん学校行事にも無理せず参加。その度に、その得意分野のおやじがリーダーとなり、お手伝いをさせていただきました。年に一度しか会えない方、お孫さんが中学生の方、私学に行かれたお子さんのお父さんであったり、会員は多岐にわたっています。多くの方と知り合いになれ、我が子が卒業してからも学校に行く機会が増え、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができてありがたいことです。

わずかですが子どもたちの成長をお手伝いしながら、子どもたちから多くの愛をいただいていることに感謝しつつ、これからも歩もうと思っています。



棚部さんがPTA役員になったのは二〇〇三(平成15)年です。私が副会長から会長になった年に棚部さんが副会長で入って来ました。

当時はPTAの男性副会長がふれあい広場(バザー)の実行委員長、いわば責任者。ごん用にお湯を沸かすとか、もち米を蒸かすとか、男手も必要になってくる。さては、自分が案を打つのはどうするかを考えたな。



校門のペンキ塗り2006(平成18)年2月



野球のゲージづくり2006(平成18)年7月

校門のペンキ塗りから始まって、大仕事だった野球のゲージづくり。歴代PTA会長で専ら柏木さん、大活躍でした。LANケーブルの敷設の際は、おがあさんたちがランチを作ってくれました。

そして二〇〇五(平成17)年の文化祭、後の「ふれスタ」の原型となる中庭でのバンド演奏。当時の用務員・渡辺さんが矢沢永吉を歌ったのを思い出します。美術の中里先生はサックスで「ルパン三世のテーマ」に参加。

ステージのラストの曲「サタデー・ナイト」(ベイ・シテイ・ローラーズ)には、生徒たちもノリノリで集まってきました。そして翌年・翌々年、中庭からグラウンドに進出したあげく、「騒音」となってしまうました。



【編集後記】



行政区、高津区地域教育会議の議長をしている角田です。なぜか『わかあゆ』の企画・編集をしています。平成18年度から3期6年、東高津中学校区の議長を務めました。

しかし、議長は私の柄ではなく、その間やそれ以降も、むしろイベントや事業の情宣および記録に関わってきました。そのため幾多のドキュメントや写真が手元にあります。

私たちの中学校区を紹介する時、①「川崎市に51の中学校区がある中、唯一、2つの中学校区が合同で活動している」とか、②「この中学校区の活動から2つのNPOが誕生した」などと言うことがあります。

①については、私より少し先輩たちの時代に由来しますが、防災・防犯ネットワークの理事でもある私は、②に関してはその真ただ中にいた訳です。SELFの副理事長である菊地さんが書いているように、「難しい問題も多々ある中で夢を語った」り、また防災・防犯ネットワーク理事長の田中さんが語るように、自社の管理物件だけ安全な街はありえず「地域全体が安全な街にならなければ」という熱さがありました。

地域活動は、それを担っていただける方をうまく繋げていくことが大事だろうと思っています。コロナ禍で通常ベースの広報誌が作れない中、記録として残せるものをまとめておこうというのが、今回の企画の目的のひとつです。

またタイミングとして、中学校区地域教育会議は、これから変革しようという時期に当たっています。2019年度から公立学校のコミュニティ・スクール化が努力義務化されたことに対応して、中学校区地域教育会議を文科省の言う「地域学校協働本部」としてリニューアルすることや、その活動を支援するための地域教育コーディネーターの委嘱について、具体化に向けた検討やコーディネーター養成講座の開催などが、急ピッチに進んでいます。

そのような中、これまでの活動をまとめ、振り返っておくことは、意義あることだろうと思いました。

何とか原稿が集まり、形になりました。企画の趣旨をご理解いただき原稿を寄せていただいた皆さまに感謝を申し上げます。あまり相談もせずに進めた企画にゴーサインを出していただいた藤田議長・横山議長、ありがとうございます。

そもそも、「(令和2年度は)角田さんには広報委員会を立て直してほしい」という横山議長の発言が発端。おおい、行政区の議長にそんなことを言えるのはあなたぐらいだよ(東高津中の歴代PTA役員は仲がよいのです)。

内容的にはおやじの会の分、東高津中学校区の比重が高くなってしまったかもしれません。藤田議長、ご容赦を。

誌面を作りながら、本当にいいメンバー・仲間に出ましたことだと、幸せな気分になりました。コロナが終息したらまた一緒に飲んだり歌ったり、神輿を担いだりしたいものです。

企画・編集 角田 仁



高津中学校区 藤田 和史 議長



東高津中学校区 横山 けい子 議長